参考資料 4

普及啓発活動実績
（別紙）

平成 20 年 9 月 3 日

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

青少年等献血ふれあい事業

【事例１】

実施センター名　：　北海道赤十字血液センター

実　施　名　称　：　サタデー・テーリング

実施日時（期間）：　平成１８年４月１日～９月３０日　６ヶ月間　毎週土曜日

実　施　場　所　：　北海道赤十字血液センター

協　力　団　体　：　札幌市交通事業振興公社
北海道学生献血推進協議会「トマトクラブ」

実　施　目　的　：　少子化に伴い献血者が減少傾向にある中、将来における献血者確保の安定化を図るために、血液センターの見学を通じて、若年者に献血の重要性や関心を持っていただき、さらに参加者及び家族の方に血液センターの場所を知っていただくことを目的として実施している。

実　施　内　容　：　札幌市営交通が毎年４月から９月まで間、毎週土曜日に市内の小学生4～6年生を対象に市公共施設等を巡るスタンプラリーを開催しており、平成17年より血液センターをその対象公共施設に組み込んでいただき、学生ボランティアグループが説明及び案内役として見学全般の対応を行う。

実　施　結　果　：　参加人数合計3,425名、実施日数25日（１日平均140名）
学生ボランティア75名協力

【事例２】

実施センター名　：　宮城県赤十字血液センター

実　施　名　称　：　献血教室

実施日時（期間）：　平成 18 年 7 月 27 日（木）・29 日（土）10:00～11:30

実　施　場　所　：　宮城県赤十字血液センター 3 階会議室

協　力　団　体　：　なし

実　施　目　的　：　献血年齢に満たない小学生（主に 4 年～6 年生）と保護者が一緒に、献血の必要性や血液の役割を知っていただき、血液センターを身近に感じていただくことを目的とし、夏休みの自由研究等の一助とする。

実　施　内　容　：（１）けんけつちゃんを使用したスライドを中心に「献血○×クイズ」を出題しながら講話。（「献血ってなぁに？」、「輸血ってなぁに？」、「血液の成分」等）
（２）所内見学（検査課、製剤課、供給課）及び献血バス、血液運搬車。
（３）配布資料（スライドで使用した資料、愛のかたち献血パンフレット、宮城の献血、献血ルームリーフレット、広報紙「献血いずみ」等）
（４）質問コーナー、アンケート。
（５）記念品（ベガッ太くん血液型キーホルダー、メモ帳等）

実　施　評　価　：　若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。

実　施　結　果　：　参加者は、7 月 27 日の 19 組（子供 25 人）44 人と 29 日の 20 組（子供 26 人） 46 人となり、当センター会議室が両日とも満員となりました。見学終えての感想は好評であった。

【事例３】

実施センター名　：　大阪府赤十字血液センター

実　施　名　称　：　第11回「献血おもしろゼミナール」
～血液センターを見学して、献血や血液のナゾに迫ってみよう～

対　　象　：　小学生（主に3～6年生）及び保護者（参加費は無料）

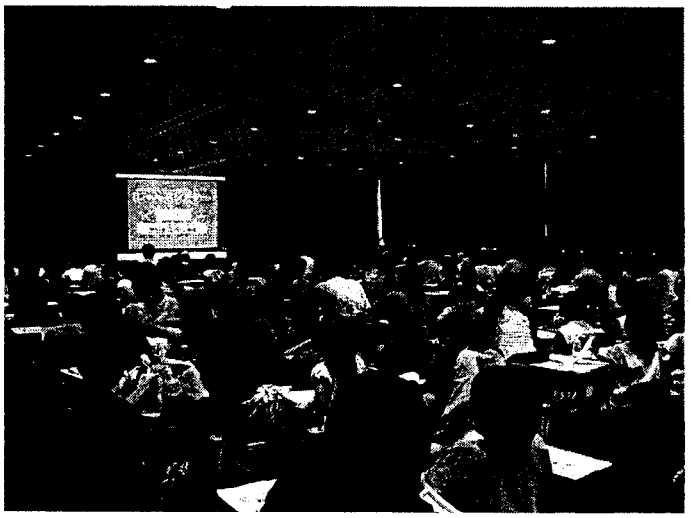
実施日時（期間）：　平成18年7月27日(木)・28（金）・31日(月)、8月1日(火)・3日(木)・4日(金)・7日(月)・8日(火)
○午前の部　10:00～11:30　○午後の部　14:00～15:30

後　　援　：　大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

実　施　目　的　：　献血年齢に満たない小学生に対して献血意義の普及と推進を図るため、「愛の血液助け合い運動」キャンペーンの一環として、夏休みの期間中に小学生を対象に血液センター見学会を開催する。見学会を通し献血の必要性と血液センターの役割への理解を深めていただき、献血や血液に興味をもっていただくことを目的とするとともに、小学生の夏休みの宿題(自由研究)を応援する。

実　施　内　容　：（１）アニメーションを使用したスライドを用いて、血液センターの仕事の概要や、献血や血液に関する説明(別添１の内容をパソコンから液晶プロジェクタを使って映写し説明)
（２）施設見学(採血室、製剤風景、検査風景、供給課)
（３）質問の受け付け、感想文を書いてもらう
（４）記念品(近畿ブロックの血液センターが共同で作製した献血啓発グッズ等)の進呈

実　施　結　果　：　参加者：総　計　1,896人



(参考：過去の実績)
平成11年度：　140人
平成12年度：　265人
平成13年度：　635人
平成14年度：1,094人
平成15年度：1,418人
平成16年度：1,864人
平成17年度：2,055人
平成18年度：1,896人

【事例４】

実施センター名　：　岡山県赤十字血液センター

実　施　名　称　：　夏休み「小学生親子血液センター見学体験教室」

実施日時　(期間)：　平成19年8月1日（水）～8月　3日（金）　3日間
平成19年8月7日（火）～8月10日（金）　4日間
午前と午後に分けて実施　（全14回）

実　施　場　所　：　岡山県赤十字血液センター（岡山市いずみ町3-36）

協　力　団　体　：　岡山県、岡山県教育委員会

実　施　目　的　：　青少年等献血ふれあい事業の一環として、県下全ての小学校5・6年生を対象に、「小学生親子血液センター見学体験教室」を開催し、親子で献血や血液に関する知識や興味をもっていただくことを目的とする。

実　施　内　容　：　（1）血液・献血の話（講話）
血液の働きや必要性、献血血液の流れ、クイズ
（2）センター施設見学
血液センターの仕事（受付、採血、検査、製剤、血液保管場所）、献血バスや緊急車の見学

実　施　評　価　：　将来の輸血医療を支えていく小学生に対し、血液の働き・献血の重要性をパワーポイントでの説明、血液センター施設内の見学により献血への理解促進を図れた。

実　施　結　果　：　参加者：681人（内児童435人）参加校：139校

若年者献血セミナー事例

【事例5】

実施センター名　：　北海道釧路赤十字血液センター

実　施　名　称　：　技術部門における「若年者献血セミナー」

実施日時（期間）：　平成19年8月夏休みの5日間　9:00～17:30

実　施　場　所　：　北海道釧路赤十字血液センター

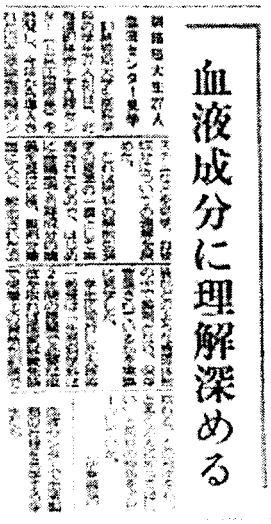
協　力　団　体　：　釧路短期大学、釧路高等専門学校

実　施　目　的　：　少子化献血推進対策の一環とし、献血推進部門の主体形を技術部門から更に支持することで、より専門的な技術系学生の献血の理解と協力が深まるものと考える。

実　施　内　容　：　（1）工学的素養を持つ学生に対し、製造部門でのバリデーションの実地体験を中心に採血・供給部門等の研修を行った。
（2）解剖生理学実習の1コマとして栄養士課程学生が、製造部門の全工程を見学し、技術職の担当者が血液成分とその機能について講義を行った。

実　施　評　価　：　献血の次世代の担い手となる20歳前後の学生実習を技術部門で積極的に受け入れることは、若年層への献血推進活動として新たな視点への期待にも繋がると考える。

実　施　結　果　：　参加者：31人　参加校：2校
当セミナー実施後、釧路短大において、献血を実施したところ、前回を大きく上回る協力(約80名)が得られた。また、同短大食物栄養専攻の学生は献血不適となる貧血改善等に向けた食生活の普及に意識が高まるようになった。


血液成分に理解深める

【事例 6】

実施センター名　：　沖縄県赤十字血液センター

実　施　名　称　：　けんけつキッズ・サマースクール

実施日時（期間）　：　平成 18 年 6 月 7 日（水）～平成 19 年 2 月 8 日（木）

実　施　場　所　：　美東小学校、兼原小学校、伊波中学校、ＫＢＣ学園
県立八重山商工高等学校他１０校

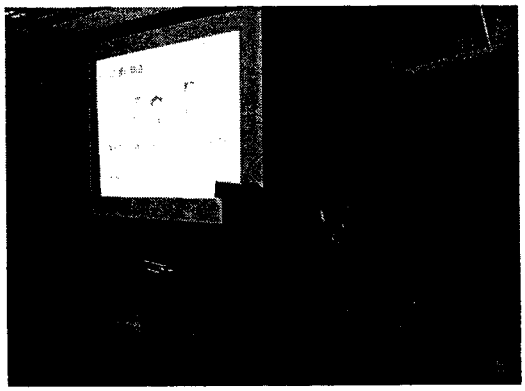
協　力　団　体　：　沖縄県、骨髄バンクを支援する会

実　施　目　的　：　若年層へ血液・献血についての知識を深めることにより献血思想の普及を図る。また、献血実施校については、献血への参加を促すとともに安全な献血を行うことを目的とする。

実　施　内　容　：　骨髄移植経験者による輸血体験談の発表。血液センター職員により血液のしくみ、献血の重要性、献血から供給までの流れ等を説明（ﾊﾟﾜｰﾎﾟｲﾝﾄ使用）

実　施　評　価　：　若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。

実　施　結　果　：　参加者：総計 2,351 人



（参考：過去の実績）
平成 16 年度約 2,100 人
平成 17 年度約 1,950 人

"命"救うボランティアを

県赤十字血液センター　献血教室を開催

県赤十字血液センターが六日午後、県立宜古屋林高校（下地盛雄校長）の二年生を対象に同校視聴覚室で行われた献血教室。同センターの大森輝明。血液の成分である赤血球、白血球、血小板には寿命があるとし、「県内の需要をまかなうには一日に百八十人前後の献血が必要」と説明した。

また輸血が必要な場合について、交通事故による大出血や手術や出産・分娩時などを挙げ、「輸血によって患者の病気を治すことができるが、実際に人の命を救うのは献血する人」と述べ、献血への理解と協力を求めた。

献血推進課長は「献血は命を救うボランティア。血液は人工的に造ることができないので一人ひとりの協力が必要」と強調した。

同教室は生徒及び職員の献血についての知識を深め、安全な献血を実施するとを目的に三年前から始まった。県内の高校三年生を対象に年間十校程度で実施している。

この日は、午前十一時二十分から伊良部高校でも行われた。

大森課長は血液の働きや血液の病気について説明。

生徒を代表して新垣愛斗夢くんが「白血病でとくなる人は出産でも多く、CMやラジオでもよく流れている。きょうの話をしっかり受け止め生徒一人ひとりよく考えたい」とお礼のことばを述べた。

複数回献血協力者確保事業事例

【事例７】

実施センター名　：　東京都赤十字血液センター

実　施　名　称　：　「サンクスドナーＡＥＤ」（献血携帯メールクラブ会員限定「医学講演、赤十字救急法講習会」）

実施日時　（期間）：　平成19年11月　4日（日）午後
平成19年11月17日（土）午後
平成20年　3月15日（土）午後

実　施　場　所　：　平成19年11月　4日（日）武蔵野赤十字病院山崎記念講堂
平成19年11月17日（土）日本赤十字社辰巳ビル
平成20年　3月15日（土）日本赤十字社辰巳ビル

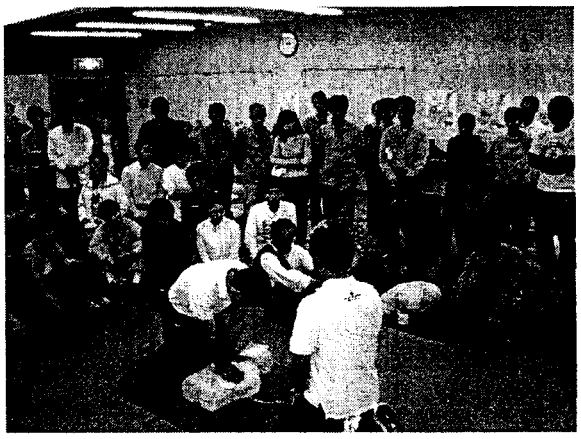
協　力　団　体　：　日本医科大多摩永山病院救命救急センター（講師派遣）

実　施　目　的　：　複数回献血者確保事業の一環として、献血携帯メールクラブ会員向けに、日頃の献血協力に対する感謝の意を込めて実施。会員限定講習会という特別イベントを行い、今後も積極的な複数回献血の協力が得られるようにする。

実　施　内　容　：　救命救急担当医の講演により、輸血の大切さや必要性を理解していただいたうえで、心配蘇生法やＡＥＤ）「自動体外式除細動器」を使用した講習を実施した。

実　施　評　価　：　3回の開催案内に対し、応募定員の252名の約5倍の申込があった。協力的な献血者の中には、このような講習会参加の希望が高いことが分かった。献血後の血液の使われ方や大切さがよく分かったと好評であった。

実　施　結　果　：　参加者：273　人



〈11/4 武蔵野赤十字病院山崎記念講堂〉

〈11/17 日本赤十字社辰巳ビル〉

【事例8】

実施センター名　：　兵庫県赤十字血液センター

実　施　名　称　：　兵庫県栄養士会との連携による献血希望者への栄養相談

実施日時（期間）：（1）平成19年11月6日（月）～平成20年3月31日（月）
受付時間14時～16時30分
（2）移動献血会場は3月7日、14日、25日の10時～15時

実　施　場　所　：（1）ミント神戸15献血ルーム
（2）移動献血会場3カ所（加古川市役所・上郡町・新宮町）

協　力　団　体　：　兵庫県栄養士会・兵庫県・県内市町

実　施　目　的　：　兵庫県栄養士会「栄養ケアステーション構想」との連携により、献血者及び比重不足等の献血不適者を対象とした栄養相談を行うことによって、献血者をはじめとする兵庫県民の健康増進に寄与するとともに複数回献血協力者の確保を目的とした。

実　施　内　容　：　血液センターが相談場所を準備し、県栄養士会が派遣した管理栄養士による献血来場者との対面式の栄養相談を行った。主に献血不適者を対象に「なるほど！献血」冊子などを活用し、食生活の改善を中心とした栄養相談（指導）とした。周知方法は血液センターホームページや献血ルーム受付での案内にてチラシを配布した。

実　施　評　価　：　（1）今回は期間が短く、複数回献血につながるかどうかまでの分析はできなかったが、この取り組みを通じて食生活の栄養バランスの大切さを理解してもらうとともに、若年層を中心にまだ献血したことのない方への献血動機づけに繋がるものと思料される。
（2）県栄養士会との連携によるＰＲ効果は大きく、新聞社2社（朝日・神戸）、ＮＨＫラジオ（『ラジオ夕刊』）、サンＴＶ（『週刊ひょうご夢情報』）で取り上げられ、冬季血液の確保の一助となった。

実　施　結　果　：　総実施回数：21回　参加者：総数　72人
一人あたりの相談時間は5～30分程度であり、平均は12～13分。

	10代	20代	30代	40代	50以上	不明	計
相談者数計	0	23	16	11	18	4	72
（内男性）	(0)	(4)	(5)	(4)	(7)		(20)

センター名：兵庫県　　新聞社名　神　　戸　　日付：11/5（月）

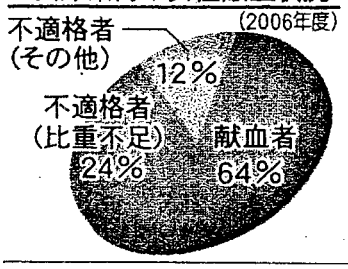
献血ルームで栄養相談

貧血で「不適格」の女性急増受け

全国初、あすから神戸で

ダイエットによる貧血などで献血に〝不適格〟とされる女性が急増しているのを受けて、兵庫県赤十字血液センターと同県栄養士会とが協力し、管理栄養士による献血希望者のための栄養相談をJR三ノ宮駅前のミント神戸15献血ルームで五日から始める。女性の健康改善とともに、輸血用血液不足の解消を目指すといい、両者のこうした連携は全国で初めて。（今泉欣也）

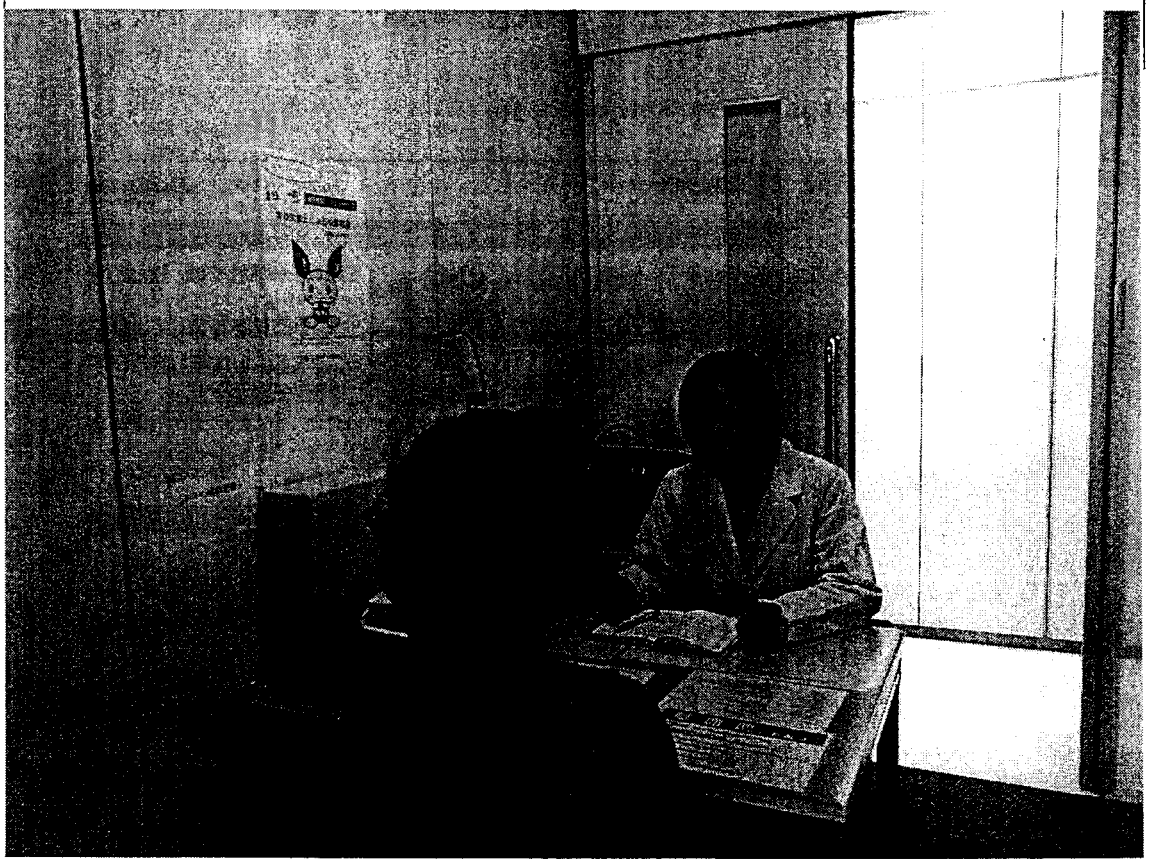
■兵庫県内の女性献血状況



同センターによると、県内で二〇〇六年度に受け付けた献血希望者は、延べ二十四万二千五百七十四人だったが、そのうち四万九千百五十七人（20%）が事前検査で不適格となった。不適格の理由では、血液の比重（鉄分）不足が二万七千二百二十九人に上った。

これには男女差があり、男性全体の1%が比重不足なのに対し、女性はほぼ四人に一人となる24%。しかも二〇〇〇年度（14%）から10%も増えた。

なぜ女性の比重不足が多いのか。同センターは「ダイエット志向の高まりや出産後の体形維持などによって貧血気味の女性が若年層を中心に急増している」と指摘する。ある女子大学で献血を受け付けたところ、希望者の半数が不適格だったといい、深刻な現状を知った県栄養士会が管理栄養士の派遣を申し出た。

栄養相談は、毎週月曜の午後二時―四時半（祝日と年末年始を除く）に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五―十五分程度の予定。

同センターの藤田嘉秀献血副部長は「兵庫は現在、約一千人分の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば〝自給〟できる」と期待する。また、県栄養士会の仙賀鈴江会長は「食生活など幅広い指導をして、県民の健康増進につなげたい」と話している。同献血ルーム☎0120・150・072